

文法を楽しく!!

「によって」

通信で習った項目：「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～ている、～である、～てくる、～ていく、～ために、～ように、～たら、～と、～て、～なくて/ないで、現象描写・判断・働きかけ、に対して・について

「によって」

次の問題1の(1)(2)は学習者が作った文です。少しおかしいように感じられますが、なぜそのように感じられるのでしょうか。また、どう直せばいいのでしょうか。

問題1

- (1) 今朝のニュースによって、あしたは晴れだそうだ。
 (2) このビルは有名な建築家に建てられた。

(1) では「によって」が、(2) では「に」がおかしいですね。正しくは次のようになります。

- (1)' 今朝のニュースによると、あしたは晴れだそうだ。
 (2)' このビルは有名な建築家によって建てられた。

(1) は文末に伝聞「そうだ」が来て、「今朝のニュース」が伝聞内容の情報源になっています。「によって」は「情報源+によって～そうだ(伝聞)」という形では使うことができず、この場合は「によると」が適切になります。「(によると)以外に(今朝のニュース)では」「(今朝のニュース)で言っていたんですけど」のような言い方もできます。

(2) は受身の文ですね。受身文では動作主(動作をする人)は通常、「に」で表されます。次の例を見てください。(3) は直接受身文、(4) は間接受身文です。右側の〔 〕の文は能動文(動作主が主語になった文)です。

- (3) 子供が先生(に・?)によって怒られた。
 [←先生が子供を怒る。]
 (4) (私は)子供(に・?)によってカメラを壊された。
 [←子供が私のカメラを壊した。]

受身の動作主を表す「によって」は書きことばで、「作る、建てる、書く、修復する」など、物事や建物、作品などが作り出されるときに多く用いられます。

- (5) 『ノルウェイの森』は村上春樹によって書かれた小説です。
 (6) この国宝の寺は宮大工によって修復される。

前回は引き続き今回も複合格助詞(助詞相当語)を勉強します。今回取り上げるのは「によって」です。「によって」は、受身文で使われる以外にもいろいろな用法があります。次の会話に現れる「によって」はどんな意味を持ち、ほかの、どんな語で置き換えることができるか考えてみてください。

問題2

- (7) A: 代表は話し合いで選んだほうがいいよ。
 B: 選挙で選ぶべきよ。
 C: じゃ、どちらの方法にするか投票によって決めよう。
 (8) A: 腰が痛くて。
 B: 腰痛だね。
 A: うん。
 B: 腰痛ってストレスによって起こることが多いんだよ。



いかがですか。わかりましたか。

(7) の「によって」は方法・手段を表し、「で」で置き換えられますね。(8) は原因・理由を表し、「で」のために「から」が可能です。

「によって」は「方法・手段」「原因・理由」「受身の動作主」以外にも次のような用法があります。

- (9) 彼の証言によってすべてが明らかになった。
 (10) どう考えるかは人によって違います。

(9) の「によって」は「根拠・よりどころ」、つまり、「そのことを根拠として何かがわかる」ことを表します。(10) は「ある場合・状況に応じて変わる」ことを表します。

前回「に対して・について」のところで、類義表現を比べるときは、その語の前後に来る語について考えることが重要だと言いました。「によって」のように用法が多岐にわたる場合、やはり前後にどんな語が来やすいかを知っておくと便利だと思われまます。

では、それぞれの用法について考えてみましょう。「によって」の前に来る語を「前」、後ろに来る語を「後」として表します。

1. 方法・手段を表す場合

その方法・手段によって何かが起きたり、変わったりするので、前に来る語は方法・手段を表す名詞、後ろに来るのは「起きる・変わる」などの結果を表す動詞が多くなります。

前：方法、技術、システム、インターネット、リサイクル、対話、教育、など
後：変わる、起きる、早くなる、決まる、可能になる、(情報) 得る、など

- (11) インターネットによって情報を得る。
- (12) リサイクルによって再利用が可能になる。

2. 原因・理由を表す場合

学術論文には次のような語が表れやすいと言われてます。(池上素子 (2005))

前：変化を表す名詞「変化、上昇、増減」、動作を表す名詞「行為、動作、働き、暴力」、動きを表さない名詞「低迷、停滞、静寂、沈黙」、など
後：結果を表す動詞「生じる・起こる」、受身動詞「行われる・もたらされる・引き起こされる・促進される」、など

- (13) 失業者の増加によって経済不安が引き起こされる。
- (14) 地球温暖化は主に海面温度の上昇によって生じる。

原因・理由を表す動詞には、「結果を表す動詞」「受身動詞」のように、話し手の意志を表さない「無意志動詞」が来やすくなります。

3. 受身文

前：作者や生産者の名前、何者か、当局、契約、法律、など
後：生産を表す動詞「つくる（作る、造る、創る）、書く、建てる、発明する、発見する、設計する」、など

- (15) 毎年新しい星が天文愛好家によって発見されている。

受身文では生産に関わるもの以外に次のような動詞も用いられます。

後：得る、解明する、発信する、制定する、決める、拘束する、など

- (16) いったん契約すると、契約書によって一生拘束される。

4. 「根拠・よりどころ」を表す場合

前：証言、告白、告発、報道、情報、調査、など
後：明らかになる、明白になる、わかる、～てくる、など

- (17) 彼女の告白によって事件の全貌がわかってきた。
- (18) 科学的な調査によってすべてが明白になるだろう。

5. 「場合・状況に応じて」を表す場合

前：場合、ところ、人、国、日、種類、(見る) 角度、会社、店、など
後：違う、異なる、変わる、など

- (19) どう考えるかは人によって違います。
- (20) 参加人数は日によって異なる。

参考文献

池上素子 (2005) 「原因を表す「によって/により」 - 学術論文コーパスにおける用いられ方 -」『日本語教育』127号

白川博之監修 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

市川保子 (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想や質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。

英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>です。